

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
石鳩岡神楽・土沢神楽調査委員会 会議録

1 開催日時

平成 29 年 11 月 15 日（水）午後 2 時から午後 3 時 35 分

2 開催場所

花巻市石鳥谷総合支所 委員会室

3 出席者

（1）委員 5 名

中村良幸委員長（花巻市文化財保護審議会委員）

中嶋奈津子副委員長（佛教大学非常勤講師）

菊池憲文委員（早池峰岳流石鳩岡神楽保存会会長）

晴山潔委員（早池峰大償流土沢山伏神楽保存会会長）

小原克仁委員（花巻市博物館主任主査兼学芸係長）

（欠席 川向富貴子委員）

（2）事務局（花巻市教育委員会教育部文化財課） 4 名

酒井宗孝課長

村田豊隆課長補佐

大内典子主任主査兼文化財係長

岡本雅子上席主任

オブザーバー

吉田純子文化庁文化財部伝統文化課文化財調査官（芸能部門）

菊池康一氏（早池峰岳流石鳩岡神楽保存会、菊池憲文委員の補助者）

4 議題

報告・協議

（1）調査事業の経過及び進捗状況について

（2）平成 30 年度調査事業について

5 議事録

1 開会

村田補佐：定刻となったので、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
石鳩岡神楽・土沢神楽調査委員会をはじめ。

2 挨拶

酒井課長：委員の皆様には、お忙しい中出席いただき感謝申し上げます。本日は文化庁から吉田純子調査官にも出席いただいた。本調査委員会は平成 27 年度に設置され、本年で 3 年目になる。この間、事務局の不手際により皆様には大変ご迷惑をおかけしていることを、深くお詫び申し上げます。昨年度から仕切りなおして文化庁の指導の下、調査を継続している。本日は今までの調査経過及び進捗状況について、並びに平成 30 年度の調査事業について、協議をいただくこととなっている。来年度はいよいよ報告をまとめて報告書を製作刊行する年度となる。委員の皆様には、今後ご協力をよろしく願います。

また、吉田調査官には、要所においてご意見ご助言を賜るようお願い申し上げます。

出席者の紹介

村田補佐から、出席者及び事務局職員の紹介がある。

会議の進行→議長：中村委員長

中村委員長：昨年は都合で会議に出席できず、一年ぶりの出席となったことをお詫び申し上げます。本日は吉田純子文化庁調査官をお迎えしての会議となる。内容の濃い会議となるよう、各委員の協力をお願いする。

では、次第に沿って会議を進めたい。協議報告に入る。

(1) 調査事業の経過及び進捗状況

- ・村田補佐から資料 2 をもとに経過について説明をした。
→平成 30 年度に報告書作成刊行の予定としたい旨考えている。平成 31 年度から映像記録に移行したいので、委員会を継続したいと考えている。(調査委員の任期の延長等)
資料 2 の 4,5 ページで現在の調査状況についてまとめた。
- ・中村委員長調査の資料（現在まとめられている部分）を見ながら現在までの調査状況について話を進めた。

中村委員長：年間行事の神楽写真が少ないと思うので、写真を持っている方に提供してもらい補完したいと思う。

古い衣装の写真等を撮影したいが、残っているものだけでいい。(原型で残っていることが少ないので)

関連で、晴山神楽、旭の又神楽、宮守の湯屋神楽、一関の鴨沢神楽、石鳥谷の千刈田神楽、八木巻神楽、野口斎部流神楽等の補足調査をしている。

中嶋副委員長：現在、石鳩岡、土沢神楽が交流している弟子神楽等に調査に行きたいと思う。(星山神楽等。神楽交流会等。)

系譜について、まだ不明な点が多いので、まとめ切れていない。

昔の神楽について見たことある方等、話が聞ける方を紹介してほしい。

晴山委員：土沢神楽では、江刺のサノムカイ神楽が弟子神楽だと聞いている。

付き合いは年賀はがきを送る程度しかない。東和町の毒沢神楽は自然に活動ができなくなり、現在は解散状態になっている。

菊池康一氏：(現在付き合いがあるのは)石鳩岡神楽は、平倉神楽と(北上市)口内の綾内神楽くらい。

中村委員長：石鳩岡神楽のシャモン集(古い物等)については、今後写真等を取らせていただきたい。

中村委員長：(系統図に)権現舞だけしか残っていない神楽について、調査報告書に含めるのかどうか、検討する必要がある。

中嶋副委員長：昔の神楽(昭和初期くらい)についてご存知の地域の高齢者等について、情報があれば教えていただきたい。出来れば、その当時の地域で神楽を見た際のこと(神楽が来るのを楽しみにしていた等の話)などについて話を伺いたい。

菊池委員：その頃の神楽を見たこと等の昔話ができる方。100歳以上の方となるとなかなか難しい。

晴山委員：神楽芝居の道具などは、昭和20年代までは残っていたと、土沢神楽の吉田氏の父親は書き残しているようだが、現在そのころのことを知っている人はいないと思う。

中村委員長：いままで話してきたような状況だが、吉田調査官から何かご意見・ご指導等あればお願いしたい。

吉田調査官：ここまで調査していただき、各委員には大変ご苦勞されたと思う。今までうかがった中で、いくつか再検討していただきたい点がある。平成27、28年度で調査されてきていて、平成30年度に調査報告書刊行予定で国庫補助申請をされるとのことだが、通常、国庫補助をいれる調査は、文化庁が調査初年度からかかわっており、年2、3回程度、文化庁調査官が会議に出席して対応していることが多い。そこ

で提案だが、今回の補助申請を 2 年間かけて補足調査等をしていただき、対応するようにはいかがだろうか。今回の資料でも調査に不足があると各委員から話もあり、具体的な情報が少ないと思われる。このままでの報告書刊行はもったいないので、2 か年での国庫補助申請を検討してほしい。

報告書の構成について、総論も作成されてはいかがか。系譜図についても、地図上に落として表記されることを、検討していただきたい。師弟関係等で特筆すべき点がある神楽について、いくつかピックアップして書き出していただければ、より内容が深まるかと思われる。芸態についての記述もあればいいかと思う。

補助対象額は 200 万円以上であるが、結果、実施したところ 180 万円しかかからなかったという事例も考えられるが、それはありうることだと思う。

酒井課長：実際事業として組めるかどうか。

吉田調査官：対象は、調査の謝金、旅費、調査に協力していた方への謝礼。資料整理にかかる臨時作業員の雇用等、古い映像資料の媒体変換等への費用も対象となる。また映像をとる場合、職員等がビデオ撮影するのであれば補助対象になるかと思うが、映像記録の業者委託は対象外となる。詳しくは手元に要綱がないので、今ははっきりと答えられない。

中村委員長：吉田調査官のご意見について、事務局で再検討してほしい。

(2) 平成 30 年度調査事業について

- ・村田補佐から資料 3 をもとに説明。

中村委員長：できるのであれば、平成 30 年度は調査オンリーとし、翌 31 年度に調査報告書刊行に集中したほうがいいのではないかと考える。

中嶋副委員長：今の状況では、調査報告書は中身が薄くなるかもしれないので、できたら期間を長めに設定してほしい。

村田補佐：2 カ年度で調査事業を見直した場合、来年度は調査、再来年で報告書刊行時に映像記録事業も同時進行して対応することは可能か。

吉田調査官：同じ事業主体が同時に二つ以上の事業を進めていくのは忙しいので難しいと思う。(緊急性が高くてやむを得ず実施した事例もある)

晴山委員：今の話では、映像記録はいつになるのか。

中村委員長：調査報告書刊行される段階で、何を撮影するかどうかははっきりしてくると思うので、その先に映像記録の作業になるのではないかと

思う。

吉田調査官：映像記録ほどの程度を撮りたいのか。

中村委員長：神楽保存会で現在踊れる演目全演目を記録として撮影したいと考えている。残しておけば、今後につながる。

晴山委員：事前に練習しないと踊れないので、撮影の時期が知りたい。平成 32 年度以降に撮影でいいのか。

中村委員長：より多く残したいので、練習を続けていただきたい。(門打ち、春祈禱等) 撮影については、相談しながら、対応していく予定。

吉田調査官の提案について、精査・検討することとして、会議を終了した。(スケジュールの見直し、調査のボリュームの精査検討)